

社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム みどりの丘・大月

～住み慣れた地域で、次世代の豊かな老後を～

【施設理念】

「心からの笑顔」

皆様の生活が 私たちの支援が共に寄り添い
心から笑顔になれる生活

「明日を託せる安心」

個性による安心 充実した設備による安心
これからの世代も生活したくなる安心

地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護
入居定員 29名(足利市にお住まいの方に限る)
全室個室

短期入所生活介護

利用定員 10名

全室個室



変わりゆく入居者を支える見守りシステム

平成24年4月1日に開設した地域密着型特別養護老人ホームです。入居者様のプライバシーを重視する観点からユニット型施設が増え始めたころに開設されました。開設当初より、記録のデジタル化を図り、パソコンでの記録運用を取り入れてきました。誰の目にも晒されない環境により安心が得られる一方で、職員の観点からすると、個室が死角となり事故の発生に気づくことが難しい状況も多くありました。

居室にはナースコールを設置していますが、この機器をうまく使える人も少なく、認知症の人や転倒してしまったとき、必要な人が必要な時に使うことができないことが多くありました。それでも、何かあった場合には施設側の責任が問われてしまうケースもあります。それを回避すべく、起き上がりを検知するセンサーコールの設置、動きを感知する体感センサーの設置が当たり前となり、気が付いた時には各ユニット、施設全体共に設置数が50%を超える状態となっていました。常に鳴り響くセンサーの音で入居者、職員共にストレスを感じるようになり、個室化が進む特養の介護現場では見守りや事故防止の負担が大きくなっているのが現状です。

介護を支える見守りシステム

令和5年6月よりICT機器の導入を検討し、施設内で「ICT推進チーム」を立ち上げました。そして、

①眠りスキャン

②眠りスキャンeye

③ハナストの3つの機器の導入を開始しました。

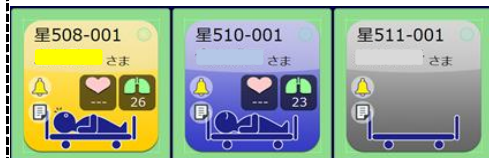
眠りスキャンはベッドマット下に設置したマットにより、睡眠中、覚醒、起き上がり、離床を感知しパソコンやスマートフォン越しでも入居者様の状態が分かる機器です。眠りスキャンeyeは事故リスクが非常に高い方のみ、ご家族様に了承を得て設置しているカメラです。起き上がりを感知すると、パソコン、スマートフォンに映像が映し出され、



スマートフォンで映像が確認できる

すぐに駆け付けなければいけない状況なのかを離れていてもその場で確認できる機器です。今まではその都度その居室に確認をしていたため、動線の短縮にも繋がります。

ハナストは、今までタブレットやパソコンにその都度入力していた記録を話すだけで入力でき、記録に要していた時間を短縮できる機器です。介護負担は年々増え、職員不足により職員一人一人の負担も大きくなっています。そんな中でICT機器を導入し、施設の理念でもある「心からの笑顔」「明日を託せる安心」がこの場で生活する入居者、この場で働く職員共に感じられるような施設を目指して、今後も取り組んでいきたいと考えています。



覚醒、睡眠中、離床を画面越しで確認できる

施設全館平面図



誰でも使用できる共有スペース



窓も解放できるコミュニティーホール

